

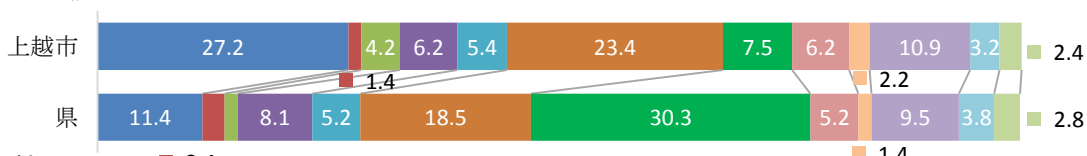
問 21 あなたが被差別部落や同和問題について、初めて知ったきっかけは何ですか。1つ選んで○をつけてください。

(上段：回答者数、下段：回答率)

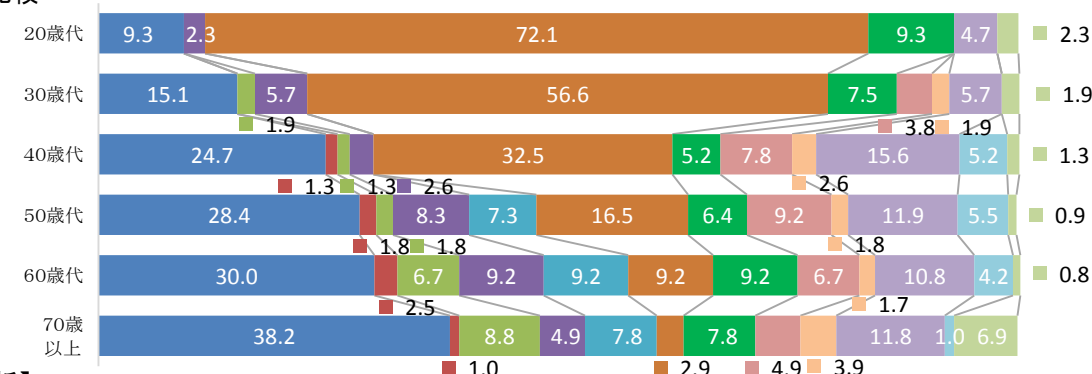
選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）から聞いた	137 27.2%	55 23.7%	80 30.0%	4 9.3%	8 15.1%	19 24.7%	31 28.4%	36 30.0%	39 38.2%
2 親戚から聞いた	7 1.4%	5 2.2%	2 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	2 1.8%	3 2.5%	1 1.0%
3 近所の人から聞いた	21 4.2%	12 5.2%	8 3.0%	0 0.0%	1 1.9%	1 1.3%	2 1.8%	8 6.7%	9 8.8%
4 職場の人から聞いた	31 6.2%	20 8.6%	11 4.1%	1 2.3%	3 5.7%	2 2.6%	9 8.3%	11 9.2%	5 4.9%
5 学校の友達から聞いた	27 5.4%	13 5.6%	13 4.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 7.3%	11 9.2%	8 7.8%
6 学校の授業で教わった	118 23.4%	42 18.1%	75 28.1%	31 72.1%	30 56.6%	25 32.5%	18 16.5%	11 9.2%	3 2.9%
7 テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどで知った	38 7.5%	21 9.1%	17 6.4%	4 9.3%	4 7.5%	4 5.2%	7 6.4%	11 9.2%	8 7.8%
8 同和問題の集会や研修会で知った	31 6.2%	15 6.5%	16 6.0%	0 0.0%	2 3.8%	6 7.8%	10 9.2%	8 6.7%	5 4.9%
9 県や市町村の広報紙などで知った	11 2.2%	8 3.4%	3 1.1%	0 0.0%	1 1.9%	2 2.6%	2 1.8%	2 1.7%	4 3.9%
10 はっきりと覚えていない	55 10.9%	28 12.1%	27 10.1%	2 4.7%	3 5.7%	12 15.6%	13 11.9%	13 10.8%	12 11.8%
11 その他	16 3.2%	8 3.4%	8 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 5.2%	6 5.5%	5 4.2%	1 1.0%
無回答	12 2.4%	5 2.2%	7 2.6%	1 2.3%	1 1.9%	1 1.3%	1 0.9%	1 0.8%	7 6.9%
回答者計	504 100.2%	232 100.1%	267 100.0%	43 100.0%	53 100.1%	77 100.1%	109 99.8%	120 100.2%	102 99.9%

- 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）から聞いた
- 親戚から聞いた
- 近所の人から聞いた
- 職場の人から聞いた
- 学校の友達から聞いた
- 学校の授業で教わった
- テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどで知った
- 同和問題の集会や研修会で知った
- 県や市町村の広報紙などで知った
- はっきりと覚えていない
- その他
- 無回答

● 県調査との比較



● 年代別比較



【結果の分析】

- ・「学校の授業で教わった」の回答が20歳代で72.1%、30歳代で56.6%と高いことは、当市における学校同和教育の成果と思われる。
- ・「家族から聞いた」という回答が県の調査結果より高く、マスメディアで知る以前に、家族の対話の中で同和問題が伝えられていることも当市の特徴である。家族の正しい同和問題認識のための啓発活動が重要である。

問 22 被差別部落の起源について、あなたはどのように受けとめていますか。1つ選んで○をつけてください。

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 人種の違いからつくられた	36 7.1%	18 7.8%	18 6.7%	5 11.6%	1 1.9%	6 7.8%	12 11.0%	9 7.5%	3 2.9%
2 宗教の違いからつくられた	5 1.0%	3 1.3%	2 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 2.5%	2 2.0%
3 職業の違いからつくられた	83 16.5%	33 14.2%	48 18.0%	5 11.6%	4 7.5%	7 9.1%	15 13.8%	29 24.2%	23 22.5%
4 生活が貧しいことによりつくられた	64 12.7%	27 11.6%	36 13.5%	4 9.3%	5 9.4%	8 10.4%	13 11.9%	18 15.0%	16 15.7%
5 けがれ、きよめ思想などにより中世の頃からつくられ始めた	52 10.3%	28 12.1%	23 8.6%	3 7.0%	4 7.5%	11 14.3%	20 18.3%	9 7.5%	5 4.9%
6 江戸時代の身分制度によりつくられた	155 30.8%	84 36.2%	71 26.6%	16 37.2%	22 41.5%	29 37.7%	27 24.8%	30 25.0%	31 30.4%
7 その他	6 1.2%	4 1.7%	2 0.7%	1 2.3%	1 1.9%	1 1.3%	0 0.0%	3 2.5%	0 0.0%
8 分からない	89 17.7%	29 12.5%	59 22.1%	7 16.3%	15 28.3%	14 18.2%	20 18.3%	17 14.2%	16 15.7%
無回答	14 2.8%	6 2.6%	8 3.0%	2 4.7%	1 1.9%	1 1.3%	2 1.8%	2 1.7%	6 5.9%
回答者計	504 100.1%	232 100.0%	267 99.9%	43 100.0%	53 99.9%	77 100.1%	109 99.9%	120 100.1%	102 100.0%

- 人種の違いからつくられた
- 宗教の違いからつくられた
- 職業の違いからつくられた
- 生活が貧しいことによりつくられた
- けがれ、きよめ思想などにより中世の頃からつくられ始めた
- 江戸時代の身分制度によりつくられた
- その他
- 分からない
- 無回答

● 今回の調査結果



【結果の分析】

・近世政治起源説に基づいた「江戸時代の身分制度」への回答が 30.8%、人種・宗教・職業・貧困を起源とする回答が合わせて 37.3%となっている。これらの回答から部落差別の起源について、依然として、誤った認識が払拭できていない現状が読み取れる。今日、部落差別の起源として有力な説となっている中世の「けがれ・きよめ思想」への回答は 10.3%だった。部落差別の起源について正しい認識が持てる啓発、教育を更に推し進める必要がある。

※近年の部落史の調査研究等により、部落差別の起源や実像が明らかにされてきている。小・中学生の教科書からは「土農工商」の表記が消え、新たに日本の文化、医療などの発展や当時の人々の安全・安心な生活に貢献するなど、被差別部落の人々が果たしてきた社会的な役割がクローズアップされてきている。

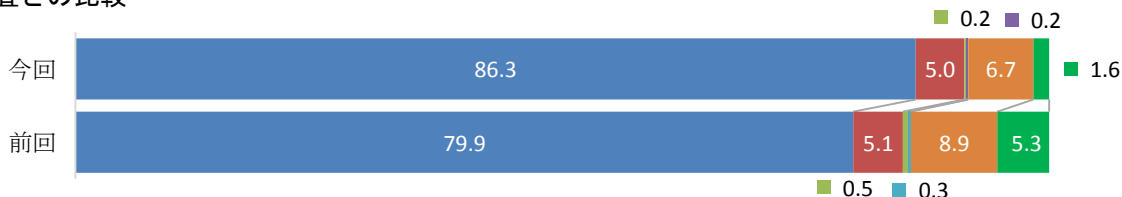
問 23 日ごろ親しく付き合っている隣近所の人被差別部落の出身であることが分かった場合、あなたは どう しますか。1つ選んで○をつけてください。

(上段：回答者数、下段：回答率)

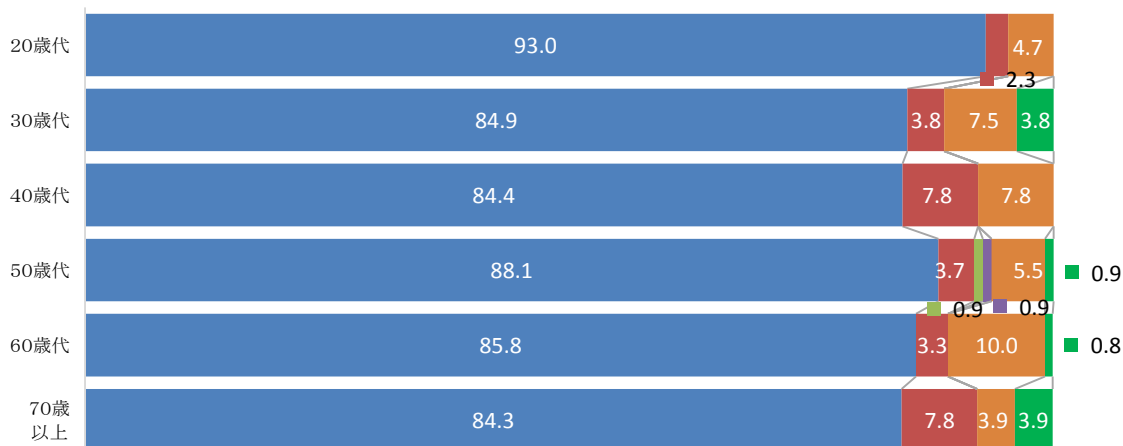
選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 これまでと同じように親しく付き合う	435 86.3%	201 86.6%	229 85.8%	40 93.0%	45 84.9%	65 84.4%	96 88.1%	103 85.8%	86 84.3%
2 表面的には付き合うが、できるだけ付き合いは避けていく	25 5.0%	15 6.5%	10 3.7%	1 2.3%	2 3.8%	6 7.8%	4 3.7%	4 3.3%	8 7.8%
3 付き合いはやめる	1 0.2%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%
4 なんとかして、近所から出ていってもらうように仕向ける	1 0.2%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.9%	0 0.0%	0 0.0%
5 自分のほうから住居を変える	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
6 分からない	34 6.7%	13 5.6%	21 7.9%	2 4.7%	4 7.5%	6 7.8%	6 5.5%	12 10.0%	4 3.9%
無回答	8 1.6%	2 0.9%	6 2.2%	0 0.0%	2 3.8%	0 0.0%	1 0.9%	1 0.8%	4 3.9%
回答者計	504 100.0%	232 100.0%	267 100.0%	43 100.0%	53 100.0%	77 100.0%	109 100.0%	120 99.9%	102 99.9%

- これまでと同じように親しく付き合う
- 表面的には付き合うが、できるだけ付き合いは避けていく
- 付き合いはやめる
- なんとかして、近所から出ていってもらうように仕向ける
- 自分のほうから住居を変える
- 分からない
- 無回答

● 前回調査との比較



● 年代別比較



【結果の分析】

- ・「これまでと同じように親しく付き合う」は 86.3%であり、前回より 6.4%増えている。特に年代別では 20 歳代が 93.0%であることは当市学校同和教育の成果と受け止められる。
- ・その反面、30 歳代以上では 10%～15%の人が付き合いを避けると回答していることから、差別意識の根深さがうかがわれる。

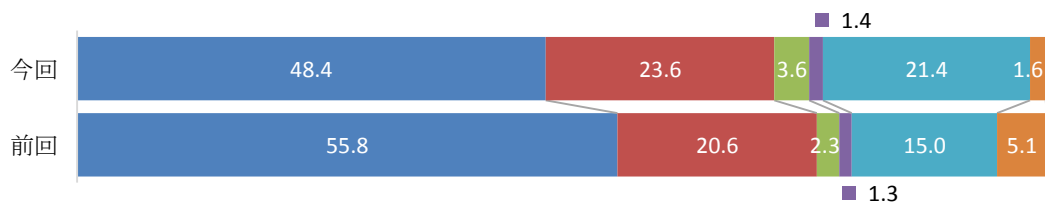
問 24 あなたの子どもの結婚しようとする相手が、被差別部落の人であると分かった場合、あなたはどうしますか。1つ選んで○をつけてください。

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 何も問題はなく、結婚を認める	244 48.4%	109 47.0%	134 50.2%	21 48.8%	34 64.2%	43 55.8%	56 51.4%	57 47.5%	33 32.4%
2 親としては反対するが子どもの意思を尊重する	119 23.6%	58 25.0%	58 21.7%	8 18.6%	5 9.4%	17 22.1%	18 16.5%	36 30.0%	35 34.3%
3 家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない	18 3.6%	11 4.7%	7 2.6%	2 4.7%	1 1.9%	1 1.3%	2 1.8%	3 2.5%	9 8.8%
4 絶対に結婚を認めない	7 1.4%	6 2.6%	1 0.4%	0 0.0%	1 1.9%	2 2.6%	1 0.9%	2 1.7%	1 1.0%
5 分からない	108 21.4%	44 19.0%	63 23.6%	12 27.9%	11 20.8%	14 18.2%	31 28.4%	21 17.5%	19 18.6%
無回答	8 1.6%	4 1.7%	4 1.5%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%	1 0.9%	1 0.8%	5 4.9%
回答者計	504 100.0%	232 100.0%	267 100.0%	43 100.0%	53 100.1%	77 100.0%	109 99.9%	120 100.0%	102 100.0%

- 何も問題はなく、結婚を認める
- 親としては反対するが、子どもの意思を尊重する
- 家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない
- 絶対に結婚を認めない
- 分からない
- 無回答

● 前回調査との比較



【結果の分析】

- ・ 前問で「これまでと同じように親しく付き合う」は 86.3%であるが、本問では「何も問題はなく、結婚を認める」が 48.4%となっている。我が子の結婚という局面になると差別意識が顕在化するように思われる。また「親としては反対するが、子どもの意思を尊重する」が増えていることから、差別が悪いと認識していても、当事者になることをためらう複雑な心情が推察される。

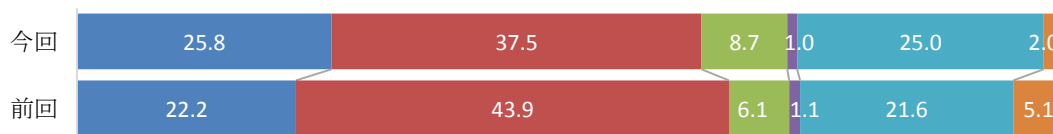
問 25 あなたが被差別部落の人と結婚しようとしたとき、親や親戚から強い反対を受けたら、あなたはどうしますか。1つ選んで○をつけてください。

(上段：回答者数、下段：回答率)

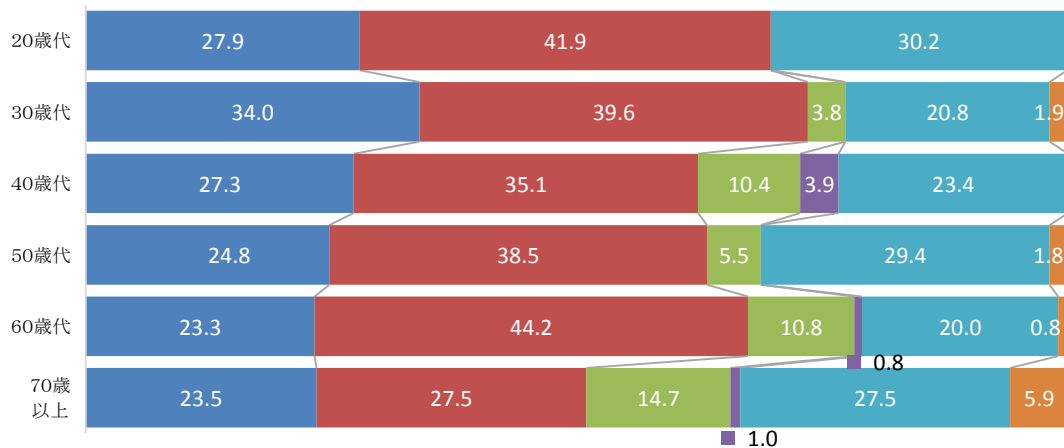
選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 自分の意思を貫いて結婚する	130 25.8%	75 32.3%	54 20.2%	12 27.9%	18 34.0%	21 27.3%	27 24.8%	28 23.3%	24 23.5%
2 親の説得に全力を傾けた後に、自分の意思を貫いて結婚する	189 37.5%	72 31.0%	116 43.4%	18 41.9%	21 39.6%	27 35.1%	42 38.5%	53 44.2%	28 27.5%
3 家族や親戚の反対があれば、結婚しない	44 8.7%	21 9.1%	23 8.6%	0 0.0%	2 3.8%	8 10.4%	6 5.5%	13 10.8%	15 14.7%
4 絶対に結婚しない	5 1.0%	4 1.7%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.9%	0 0.0%	1 0.8%	1 1.0%
5 分からない	126 25.0%	54 23.3%	69 25.8%	13 30.2%	11 20.8%	18 23.4%	32 29.4%	24 20.0%	28 27.5%
無回答	10 2.0%	6 2.6%	4 1.5%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%	2 1.8%	1 0.8%	6 5.9%
回答者計	504 100.0%	232 100.0%	267 99.9%	43 100.0%	53 100.1%	77 100.1%	109 100.0%	120 99.9%	102 100.1%

- 自分の意思を貫いて結婚する
- 親の説得に全力を傾けた後に、自分の意思を貫いて結婚する
- 家族や親戚の反対があれば、結婚しない
- 絶対に結婚しない
- 分からない
- 無回答

● 前回調査との比較



● 年代別比較



【結果の分析】

- ・ 前回はやや下回ったものの、およそ3人に2人は「結婚する」と回答している。一方で「結婚しない」と回答した人の中には、「反対があれば結婚しない」など予断や偏見が感じられる人も含まれるため、今まで以上に、市民啓発を充実する必要がある。なお、「家族や親戚の反対があれば、結婚しない」が20歳代で回答がなく、30歳代においても低率であることは、当市学校同和教育で差別解消に取り組んできた成果であると思われる。

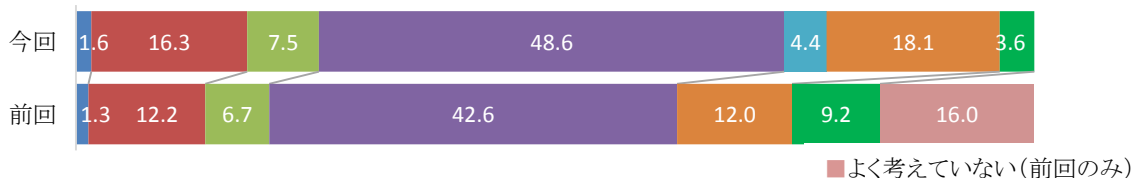
問 26 あなたは、同和問題をどのように解決すべきであると考えていますか。あなたの考えに近いものを1つ選んで○をつけてください。

(上段：回答者数、下段：回答率)

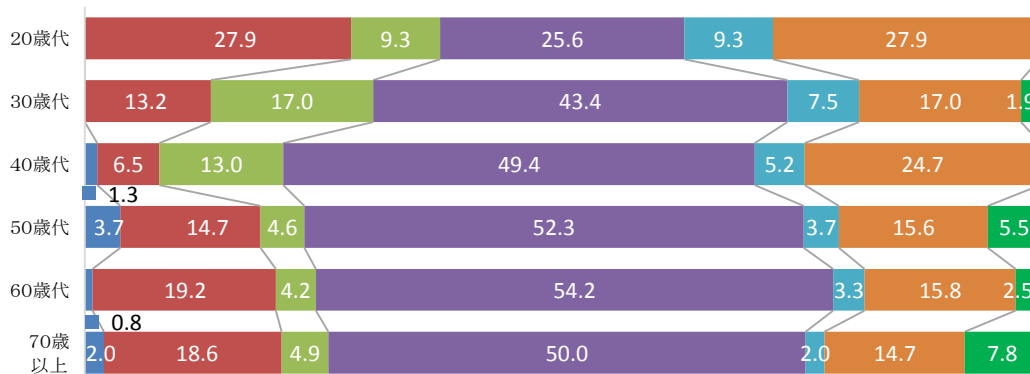
選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 被差別部落の人だけの問題だから自分には直接関係のない問題だと思う	8 1.6%	5 2.2%	3 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	4 3.7%	1 0.8%	2 2.0%
2 自分ではどうしようもない問題だから成り行きにまかせるより仕方ないと思う	82 16.3%	37 15.9%	44 16.5%	12 27.9%	7 13.2%	5 6.5%	16 14.7%	23 19.2%	19 18.6%
3 自分ではどうしようもない問題だから、誰かしかるべき人が解決してくれると思う	38 7.5%	14 6.0%	24 9.0%	4 9.3%	9 17.0%	10 13.0%	5 4.6%	5 4.2%	5 4.9%
4 基本的人権にかかわる問題だから自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う	245 48.6%	119 51.3%	124 46.4%	11 25.6%	23 43.4%	38 49.4%	57 52.3%	65 54.2%	51 50.0%
5 その他	22 4.4%	13 5.6%	9 3.4%	4 9.3%	4 7.5%	4 5.2%	4 3.7%	4 3.3%	2 2.0%
6 分からない	91 18.1%	36 15.5%	54 20.2%	12 27.9%	9 17.0%	19 24.7%	17 15.6%	19 15.8%	15 14.7%
無回答	18 3.6%	8 3.4%	9 3.4%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%	6 5.5%	3 2.5%	8 7.8%
回答者計	504 100.1%	232 99.9%	267 100.0%	43 100.0%	53 100.0%	77 100.1%	109 100.1%	120 100.0%	102 100.0%

- 被差別部落の人だけの問題だから自分には直接関係のない問題だと思う
- 自分ではどうしようもない問題だから成り行きにまかせるより仕方ないと思う
- 自分ではどうしようもない問題だから、誰かしかるべき人が解決してくれると思う
- 基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う
- その他
- 分からない
- 無回答
- よく考えていない

### ● 前回調査との比較



### ● 年代別比較



### 【結果の分析】

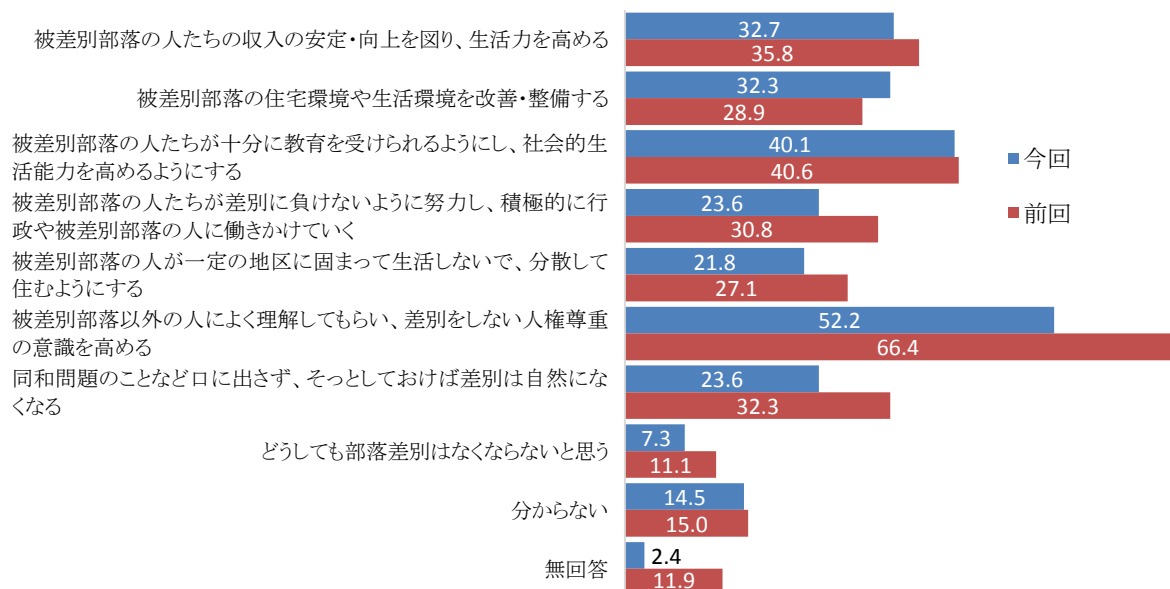
- ・「基本的人権にかかわる問題だから、自分も市民の一人として、この問題の解決に努力すべきだと思う」という同和問題の解決に肯定的で主体的に取り組むという回答は48.6%であり、前回と比較して6.0%高くなっている点は評価できる。しかし、20歳代で「成り行きにまかせるより仕方ない」という回答が高くなっている。若年層を中心に、差別は差別をする側の問題として捉え、社会全体で解決することが大切なことを啓発していく必要がある。

問 27 同和問題を解決するためには、どうしたらよいと思いますか。あなたの考えに近いものを、3つ選んで○をつけてください。

(上段：回答数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 被差別部落の人たちの収入の安定・向上を図り、生活力を高める	165 32.7%	69 29.7%	94 35.2%	16 37.2%	20 37.7%	23 29.9%	35 32.1%	36 30.0%	35 34.3%
2 被差別部落の住宅環境や生活環境を改善・整備する	163 32.3%	69 29.7%	94 35.2%	18 41.9%	25 47.2%	28 36.4%	36 33.0%	34 28.3%	22 21.6%
3 被差別部落の人たちが十分に教育を受けられるようにし、社会的な生活能力を高めるようにする	202 40.1%	88 37.9%	112 41.9%	19 44.2%	23 43.4%	35 45.5%	47 43.1%	41 34.2%	37 36.3%
4 被差別部落の人たちが差別に負けないように努力し、積極的に行政や被差別部落の人に働きかけていく	119 23.6%	63 27.2%	55 20.6%	6 14.0%	5 9.4%	13 16.9%	25 22.9%	31 25.8%	39 38.2%
5 被差別部落の人が一定の地区に固まって生活しないで、分散して住むようにする	110 21.8%	48 20.7%	62 23.2%	13 30.2%	8 15.1%	27 35.1%	20 18.3%	26 21.7%	16 15.7%
6 被差別部落以外の人によく理解してもらい、差別をしない人権尊重の意識を高める	263 52.2%	117 50.4%	145 54.3%	23 53.5%	28 52.8%	40 51.9%	66 60.6%	59 49.2%	47 46.1%
7 同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば差別は自然になくなる	119 23.6%	57 24.6%	60 22.5%	10 23.3%	12 22.6%	16 20.8%	15 13.8%	34 28.3%	32 31.4%
8 どうしても部落差別はなくならないと思う	37 7.3%	18 7.8%	19 7.1%	3 7.0%	3 5.7%	7 9.1%	6 5.5%	11 9.2%	7 6.9%
9 分からない	73 14.5%	35 15.1%	38 14.2%	6 14.0%	9 17.0%	11 14.3%	15 13.8%	23 19.2%	9 8.8%
無回答	12 2.4%	7 3.0%	4 1.5%	0 0.0%	1 1.9%	0 0.0%	3 2.8%	1 0.8%	7 6.9%
回答者計	504	232	267	43	53	77	109	120	102

● 前回調査との比較



【結果の分析】

・「そっとしておけば差別は自然になくなる」(自然解消論)、「被差別部落の人が分散して住むようにする」(地域分散論)及び「どうしても部落差別はなくならない」(あきらめ論)は前回と比較して、いずれも減少している。しかしながら「被差別部落以外の人によく理解してもらい、差別をしない人権尊重の意識を高める」が14.2%減少していることを踏まえて、差別は差別をする側の問題として捉え、自らにかかわる重要な問題であるとの認識を持ってもらえるように、市民啓発を続けていくことが必要である。

問 28 あなたは、同和問題についての講演会や研修会に参加したり、新聞や雑誌の関連した記事を読んだことがありますか。

1～10のそれぞれについて、何度もある場合は「あ」を、1回または2回ある場合は「い」を、一度もない場合は「う」に○をつけてください。

1 講演会、研修会 (上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
あ 何度もある	69 13.7%	35 15.1%	34 12.7%	3 7.0%	6 11.3%	12 15.6%	19 17.4%	15 12.5%	14 13.7%
い 1回または2回ある	91 18.1%	43 18.5%	47 17.6%	12 27.9%	5 9.4%	17 22.1%	20 18.3%	22 18.3%	15 14.7%
う 1度もない	303 60.1%	135 58.2%	165 61.8%	27 62.8%	38 71.7%	46 59.7%	67 61.5%	75 62.5%	50 49.0%
無回答	41 8.1%	19 8.2%	21 7.9%	1 2.3%	4 7.5%	2 2.6%	3 2.8%	8 6.7%	23 22.5%
回答者計	504 100.0%	232 100.0%	267 100.0%	43 100.0%	53 99.9%	77 100.0%	109 100.0%	120 100.0%	102 99.9%

2 地域懇談会 (上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
あ 何度もある	13 2.6%	6 2.6%	7 2.6%	0 0.0%	1 1.9%	2 2.6%	5 4.6%	1 0.8%	4 3.9%
い 1回または2回ある	52 10.3%	31 13.4%	20 7.5%	2 4.7%	1 1.9%	5 6.5%	20 18.3%	12 10.0%	12 11.8%
う 1度もない	386 76.6%	168 72.4%	216 80.9%	40 93.0%	47 88.7%	67 87.0%	78 71.6%	95 79.2%	59 57.8%
無回答	53 10.5%	27 11.6%	24 9.0%	1 2.3%	4 7.5%	3 3.9%	6 5.5%	12 10.0%	27 26.5%
回答者計	504 100.0%	232 100.0%	267 100.0%	43 100.0%	53 100.0%	77 100.0%	109 100.0%	120 100.0%	102 100.0%

3 広報紙、冊子、パンフレット (上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
あ 何度もある	89 17.7%	45 19.4%	44 16.5%	1 2.3%	6 11.3%	14 18.2%	25 22.9%	25 20.8%	18 17.6%
い 1回または2回ある	172 34.1%	79 34.1%	92 34.5%	13 30.2%	11 20.8%	28 36.4%	45 41.3%	45 37.5%	30 29.4%
う 1度もない	193 38.3%	84 36.2%	108 40.4%	28 65.1%	33 62.3%	32 41.6%	35 32.1%	39 32.5%	26 25.5%
無回答	50 9.9%	24 10.3%	23 8.6%	1 2.3%	3 5.7%	3 3.9%	4 3.7%	11 9.2%	28 27.5%
回答者計	504 100.0%	232 100.0%	267 100.0%	43 99.9%	53 100.1%	77 100.1%	109 100.0%	120 100.0%	102 100.0%

4 新聞 (上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
あ 何度もある	84 16.7%	34 14.7%	50 18.7%	4 9.3%	6 11.3%	14 18.2%	21 19.3%	24 20.0%	15 14.7%
い 1回または2回ある	189 37.5%	102 44.0%	86 32.2%	10 23.3%	13 24.5%	23 29.9%	44 40.4%	55 45.8%	44 43.1%
う 1度もない	184 36.5%	73 31.5%	110 41.2%	28 65.1%	31 58.5%	37 48.1%	39 35.8%	31 25.8%	18 17.6%
無回答	47 9.3%	23 9.9%	21 7.9%	1 2.3%	3 5.7%	3 3.9%	5 4.6%	10 8.3%	25 24.5%
回答者計	504 100.0%	232 100.1%	267 100.0%	43 100.0%	53 100.0%	77 100.1%	109 100.1%	120 99.9%	102 99.9%

5 雑誌、週刊誌 (上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
あ 何度もある	59 11.7%	27 11.6%	32 12.0%	3 7.0%	2 3.8%	8 10.4%	15 13.8%	19 15.8%	12 11.8%
い 1回または2回ある	168 33.3%	89 38.4%	78 29.2%	9 20.9%	8 15.1%	16 20.8%	42 38.5%	54 45.0%	39 38.2%
う 1度もない	227 45.0%	89 38.4%	137 51.3%	30 69.8%	39 73.6%	50 64.9%	46 42.2%	38 31.7%	24 23.5%
無回答	50 9.9%	27 11.6%	20 7.5%	1 2.3%	4 7.5%	3 3.9%	6 5.5%	9 7.5%	27 26.5%
回答者計	504 99.9%	232 100.0%	267 100.0%	43 100.0%	53 100.0%	77 100.0%	109 100.0%	120 100.0%	102 100.0%



## 6 書籍

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢		全体	男女比較		年代別比較					
			男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
あ	何度もある	44 8.7%	22 9.5%	22 8.2%	1 2.3%	4 7.5%	9 11.7%	10 9.2%	13 10.8%	7 6.9%
い	1回または2回ある	115 22.8%	62 26.7%	53 19.9%	11 25.6%	5 9.4%	11 14.3%	30 27.5%	36 30.0%	22 21.6%
う	1度もない	294 58.3%	121 52.2%	171 64.0%	30 69.8%	41 77.4%	54 70.1%	64 58.7%	60 50.0%	45 44.1%
無回答		51 10.1%	27 11.6%	21 7.9%	1 2.3%	3 5.7%	3 3.9%	5 4.6%	11 9.2%	28 27.5%
回答者計		504 99.9%	232 100.0%	267 100.0%	43 100.0%	53 100.0%	77 100.0%	109 100.0%	120 100.0%	102 100.0%

## 7 テレビ、ラジオ

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢		全体	男女比較		年代別比較					
			男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
あ	何度もある	53 10.5%	20 8.6%	33 12.4%	4 9.3%	6 11.3%	6 7.8%	11 10.1%	16 13.3%	10 9.8%
い	1回または2回ある	175 34.7%	87 37.5%	87 32.6%	15 34.9%	14 26.4%	22 28.6%	36 33.0%	54 45.0%	34 33.3%
う	1度もない	226 44.8%	100 43.1%	125 46.8%	24 55.8%	30 56.6%	47 61.0%	55 50.5%	40 33.3%	30 29.4%
無回答		50 9.9%	25 10.8%	22 8.2%	0 0.0%	3 5.7%	2 2.6%	7 6.4%	10 8.3%	28 27.5%
回答者計		504 99.9%	232 100.0%	267 100.0%	43 100.0%	53 100.0%	77 100.0%	109 100.0%	120 99.9%	102 100.0%

## 8 インターネット

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢		全体	男女比較		年代別比較					
			男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
あ	何度もある	25 5.0%	9 3.9%	16 6.0%	4 9.3%	5 9.4%	8 10.4%	5 4.6%	2 1.7%	1 1.0%
い	1回または2回ある	66 13.1%	41 17.7%	25 9.4%	11 25.6%	6 11.3%	14 18.2%	19 17.4%	12 10.0%	4 3.9%
う	1度もない	360 71.4%	155 66.8%	203 76.0%	27 62.8%	39 73.6%	53 68.8%	79 72.5%	96 80.0%	66 64.7%
無回答		53 10.5%	27 11.6%	23 8.6%	1 2.3%	3 5.7%	2 2.6%	6 5.5%	10 8.3%	31 30.4%
回答者計		504 100.0%	232 100.0%	267 100.0%	43 100.0%	53 100.0%	77 100.0%	109 100.0%	120 100.0%	102 100.0%

## 9 映画、ビデオ

(上段：回答者数、下段：回答率)

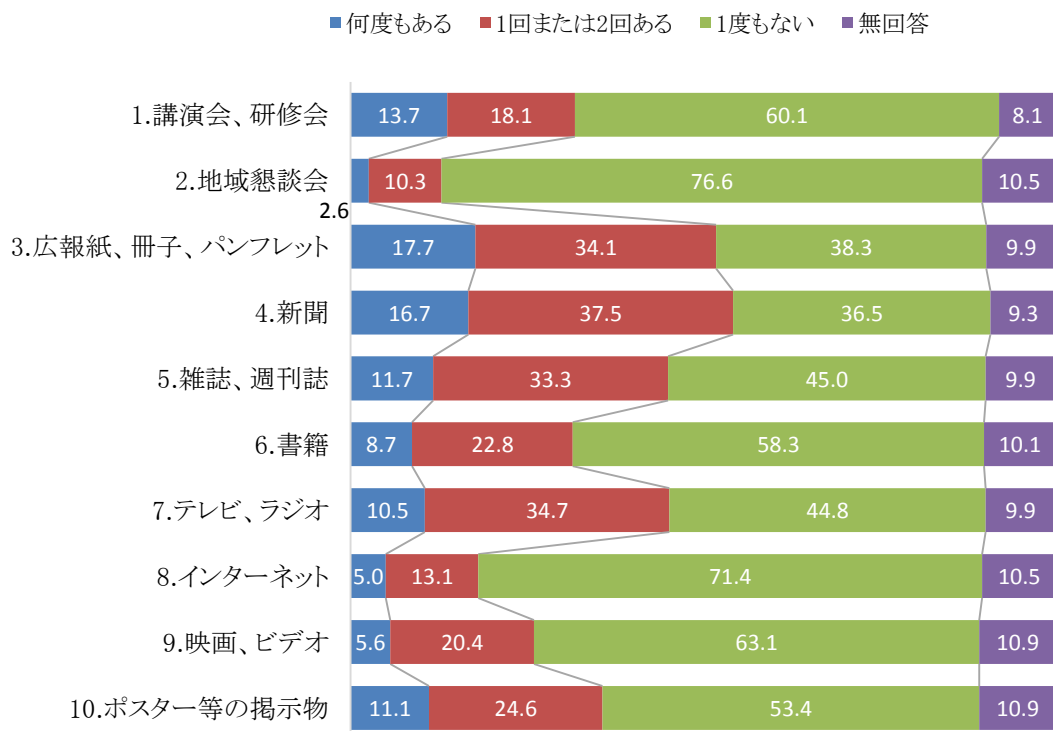
選択肢		全体	男女比較		年代別比較					
			男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
あ	何度もある	28 5.6%	14 6.0%	14 5.2%	2 4.7%	0 0.0%	8 10.4%	7 6.4%	5 4.2%	6 5.9%
い	1回または2回ある	103 20.4%	51 22.0%	52 19.5%	7 16.3%	7 13.2%	13 16.9%	27 24.8%	31 25.8%	18 17.6%
う	1度もない	318 63.1%	139 59.9%	177 66.3%	33 76.7%	43 81.1%	53 68.8%	69 63.3%	73 60.8%	47 46.1%
無回答		55 10.9%	28 12.1%	24 9.0%	1 2.3%	3 5.7%	3 3.9%	6 5.5%	11 9.2%	31 30.4%
回答者計		504 100.0%	232 100.0%	267 100.0%	43 100.0%	53 100.0%	77 100.0%	109 100.0%	120 100.0%	102 100.0%

## 10 ポスター等の掲示物

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢		全体	男女比較		年代別比較					
			男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
あ	何度もある	56 11.1%	25 10.8%	31 11.6%	5 11.6%	3 5.7%	12 15.6%	17 15.6%	11 9.2%	8 7.8%
い	1回または2回ある	124 24.6%	58 25.0%	65 24.3%	8 18.6%	8 15.1%	17 22.1%	28 25.7%	41 34.2%	22 21.6%
う	1度もない	269 53.4%	121 52.2%	147 55.1%	29 67.4%	38 71.7%	45 58.4%	59 54.1%	57 47.5%	41 40.2%
無回答		55 10.9%	28 12.1%	24 9.0%	1 2.3%	4 7.5%	3 3.9%	5 4.6%	11 9.2%	31 30.4%
回答者計		504 100.0%	232 100.1%	267 100.0%	43 99.9%	53 100.0%	77 100.0%	109 100.0%	120 100.1%	102 100.0%

## ● 今回の調査結果



### 【結果の分析】

- 同和問題に関する講演会参加や新聞等で関係する記事を読んだ経験について、講演会などへの参加が31.8%、地域懇談会12.9%、広報紙等で読んだが51.8%、新聞54.2%、雑誌45.0%、書籍31.5%、テレビ等45.2%、インターネット18.1%、映画等26.0%、ポスター等35.7%となった。雑誌、テレビなどのメディアで同和問題に触れる機会も多く、インターネットも若い世代で利用が高いが、同和問題に対する正しい理解を普及するためには、広報紙での啓発や講演会の開催が有効であることから、場の設定や内容の工夫を図りながら、引き続き取組を進めていく必要がある。

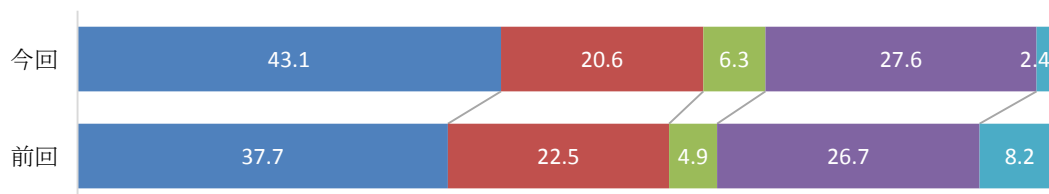
問 29 同和問題についての啓発（講演会、研修会、映画会、広報等）を今後どうするべきだと思いますか。  
1つ選んで○をつけてください。

（上段：回答者数、下段：回答率）

選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 積極的に 行うべき である	217 43.1%	107 46.1%	110 41.2%	22 51.2%	24 45.3%	37 48.1%	50 45.9%	45 37.5%	39 38.2%
2 あまりや らない方 がよい	104 20.6%	53 22.8%	50 18.7%	6 14.0%	11 20.8%	14 18.2%	17 15.6%	29 24.2%	27 26.5%
3 やるべ きでは ない	32 6.3%	17 7.3%	15 5.6%	4 9.3%	3 5.7%	5 6.5%	2 1.8%	12 10.0%	6 5.9%
4 分から ない	139 27.6%	52 22.4%	84 31.5%	11 25.6%	14 26.4%	20 26.0%	36 33.0%	33 27.5%	25 24.5%
無回答	12 2.4%	3 1.3%	8 3.0%	0 0.0%	1 1.9%	1 1.3%	4 3.7%	1 0.8%	5 4.9%
回答者計	504 100.0%	232 99.9%	267 100.0%	43 100.1%	53 100.1%	77 100.1%	109 100.0%	120 100.0%	102 100.0%

■積極的に  
行うべき  
である ■あまり  
やらない  
方がよい ■やる  
べきでは  
ない  
■分から  
ない ■無  
回答

### ●前回調査との比較



### 【結果の分析】

- ・ 前回調査と比較して、「積極的に  
行うべきである」との回答が 5.4%増え、同和問題解消のための啓発の重要性を理解して、積極的に  
行うべきとの考えが高まっている。
- ・ 一方、「あまりやらない方がよい」と「やるべきではない」の回答は 26.9%で前回と同水準である。問 27 において、「同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば差別は自然になくなる」（寝た子を起こすな論）の回答も 23.6%の市民が選択している。「寝た子を起こすな論」の払拭を図ることを含めて、講演会や研修会などで啓発を行う必要がある。

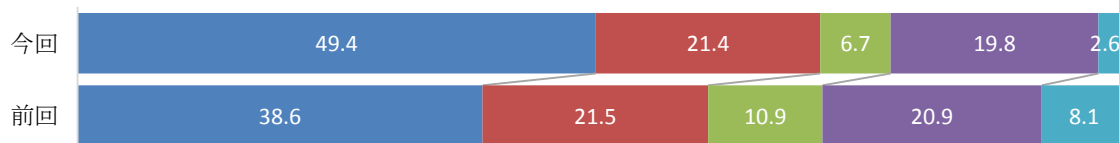
問 30 小中学校で行っている、同和問題をはじめとした様々な人権課題を学ぶ同和教育について、あなたの考えに近いものはどれですか。1つ選んで○をつけてください。

(上段：回答者数、下段：回答率)

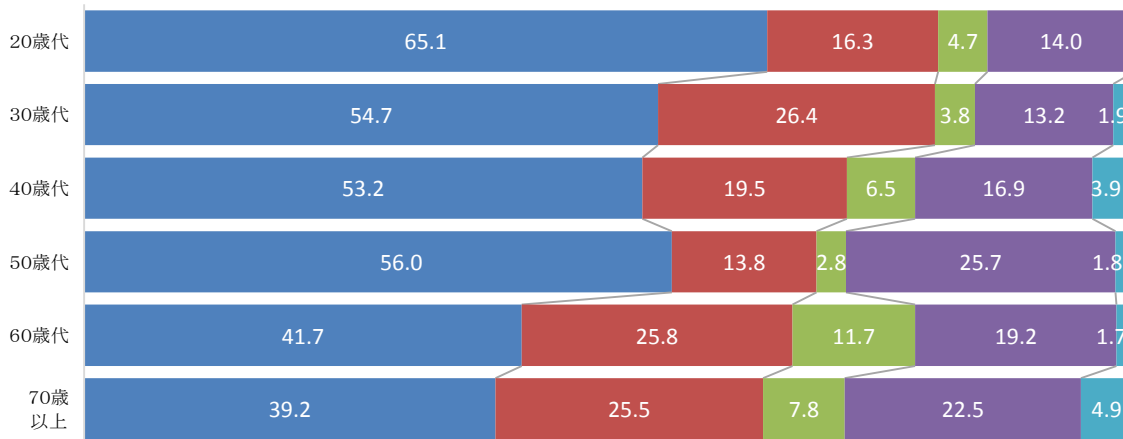
選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 積極的に行うべきである	249 49.4%	111 47.8%	138 51.7%	28 65.1%	29 54.7%	41 53.2%	61 56.0%	50 41.7%	40 39.2%
2 あまりやらない方がよい	108 21.4%	55 23.7%	53 19.9%	7 16.3%	14 26.4%	15 19.5%	15 13.8%	31 25.8%	26 25.5%
3 やるべきではない	34 6.7%	16 6.9%	18 6.7%	2 4.7%	2 3.8%	5 6.5%	3 2.8%	14 11.7%	8 7.8%
4 分からない	100 19.8%	46 19.8%	50 18.7%	6 14.0%	7 13.2%	13 16.9%	28 25.7%	23 19.2%	23 22.5%
無回答	13 2.6%	4 1.7%	8 3.0%	0 0.0%	1 1.9%	3 3.9%	2 1.8%	2 1.7%	5 4.9%
回答者計	504 99.9%	232 99.9%	267 100.0%	43 100.1%	53 100.0%	77 100.0%	109 100.1%	120 100.1%	102 99.9%

■積極的に行うべきである ■あまりやらない方がよい ■やるべきではない ■分からない ■無回答

### ●前回調査との比較



### ●年代別比較



### 【結果の分析】

- ・前回調査と比較して、「積極的に行うべきである」との回答は10.8%高くなっている。中でも、20歳代では60%強となっているように、特に学校で同和教育を受けた世代が様々な人権課題を学ぶ同教育の必要性を理解していること、また、学校での同和教育が着実に推進され、児童・生徒を通じて保護者、地域にも必要性が浸透してきていることが、アンケート結果に反映されているものと考えられる。ただし、「分からない」や無回答を含めて否定的な回答が依然として半数以上あることを踏まえ、取組の継続、充実が必要である。

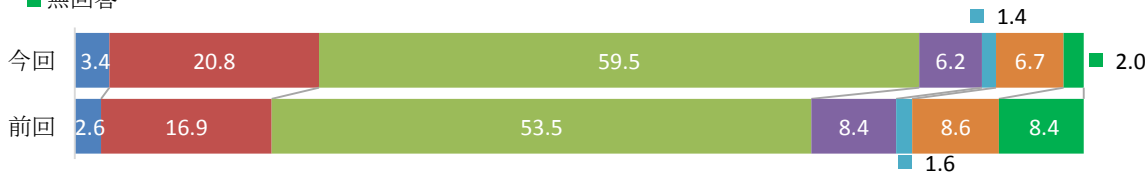
問 31 人権問題には、同和問題のほかに女性、子ども、高齢者、外国人市民、障害のある人等の問題がありますが、今後の同和問題の啓発・教育のあり方について、あなたの考えに近いものはどれですか。1つ選んで○をつけてください。

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代別比較					
		男	女	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 同和問題は他の人権問題と同列に扱うのは適当ではなく、他の人権問題よりも特に重点的に啓発教育を行うべきである	17 3.4%	11 4.7%	6 2.2%	3 7.0%	2 3.8%	0 0.0%	3 2.8%	1 0.8%	8 7.8%
2 同和問題について積極的な啓発教育を行うとともに、他の人権問題についても積極的な啓発、教育を行うべきである	105 20.8%	52 22.4%	53 19.9%	12 27.9%	12 22.6%	13 16.9%	28 25.7%	20 16.7%	20 19.6%
3 人権意識そのものを高めることが重要なので、同和問題だけを取り上げて啓発・教育を行うのではなく、人権問題全体の啓発・教育の一環として行うべきである	300 59.5%	124 53.4%	173 64.8%	22 51.2%	31 58.5%	52 67.5%	65 59.6%	79 65.8%	51 50.0%
4 同和問題についての啓発・教育はむしろ必要なく、他の人権問題についての啓発・教育の方が重要である	31 6.2%	15 6.5%	16 6.0%	4 9.3%	0 0.0%	6 7.8%	4 3.7%	9 7.5%	8 7.8%
5 同和問題、他の人権問題のいずれかについても、啓発・教育の必要はない	7 1.4%	6 2.6%	1 0.4%	1 2.3%	1 1.9%	1 1.3%	0 0.0%	1 0.8%	3 2.9%
6 分からない	34 6.7%	20 8.6%	13 4.9%	1 2.3%	6 11.3%	4 5.2%	7 6.4%	8 6.7%	8 7.8%
無回答	10 2.0%	4 1.7%	5 1.9%	0 0.0%	1 1.9%	1 1.3%	2 1.8%	2 1.7%	4 3.9%
回答者計	504 100.0%	232 99.9%	267 100.1%	43 100.0%	53 100.0%	77 100.0%	109 100.0%	120 100.0%	102 99.8%

●前回調査との比較

- 同和問題は他の人権問題と同列に扱うのは適当ではなく、他の人権問題よりも特に重点的に啓発・教育を行うべきである
- 同和問題について積極的な啓発・教育を行うとともに、他の人権問題についても積極的な啓発、教育を行うべきである
- 人権意識そのものを高めることが重要なので、同和問題だけを取り上げて啓発・教育を行うのではなく、人権問題全体の啓発・教育の一環として行うべきである
- 同和問題についての啓発・教育はむしろ必要なく、他の人権問題についての啓発・教育の方が重要である
- 同和問題、他の人権問題のいずれかについても、啓発・教育の必要はない
- 分からない
- 無回答



【結果の分析】

- ・「人権意識そのものを高めることが重要」との考えが約60%を占めていることから、上越市が「人権総合計画」に基づき同和問題をはじめ、様々な人権問題について施策を展開していることは、市民から一定の理解を得ていると評価できる。
- ・次いで「同和問題について積極的な啓発・教育を行うとともに」の回答が20.8%と前回より3.9%高くなっている。同和問題についても、これまで同様に積極的な啓発・教育に取り組むことが求められている。
- ・「同和問題、他の人権問題のいずれかについても、啓発・教育の必要はない」、「分からない」、無回答が減っている。市民の人権問題への関心の高まりを感じることができる。